

学校点描^{プラス}+

肌寒い中の運動会練習が続きましたが、今日は温かな陽気です。生徒の疲労もたまっているかもしれません。

《K中学校》

NO.4

R4. 5. 18

担当：校長

ゴールデンウィーク中には、各種大会が開催されました。卓球の齋藤清杯兼春季大会で、N・Tさんが、中学生以下男子シングルスで優勝しました。ソフトテニス地区春季大会女子個人戦で、S・M・S・Aペアが第3位に入賞しました。地区総体に向けての準備が始まっています。

新たに学習指導員として、K・Hさんが本校の職員として勤務されることになりました。幼稚園や保育園で先生をされてきた方です。中学生との交流は初めてということでしたが、きっと生徒たちを温かい目でサポートしてくれるでしょう。

14日（土）は、早朝6時よりPTA整備部の方々からお集まりいただき、学校花壇の耕耘とマルチビニル張りを行っていただきました。雨の中の作業でしたが、正面玄関前の花壇はいつでも苗が植えられる状態になりました。校舎裏側の花壇は、積雪もあり土が堅くビニルを剥がすだけで精一杯でした。利用するには、もう少し手を加えなくてははいけないようです。

同日の午前中に地区駅伝大会がM川町民総合運動公園を会場に開催されました。雨の中、男女ともに感動的なレースを観戦することができました。結果は、女子（T・Aさん、H・Sさん、K・Rさん、K・Kさん、S・Hさん）が見事優勝、男子（Y・Kさん、K・Jさん、M・Sさん、M・Rさん、H・Kさん、U・Rさん）が第3位に入賞しました。女子の区間賞ではT・Aさんが第1位、K・RとK・Kさんが第2位、H・Sさんが第3位でした。男子の区間賞は、Y・Kさん、K・Jさん、M・Rさんが第2位でした。



以前勤務した学校の中には、足が速くても選手になることを断る生徒もいました。失敗が怖いという理由で挑戦の機会を自ら失うというそんなことがあったことを思い出します。自分の力を全力で発揮できる学校、失敗してもいいんだと思って挑戦できる学校、それがあっての今大会の男女の入賞だと考えているわたしです。優勝のゴール後に、最終ランナーだったHさんが「笑顔で走り切りました！」と言ってくれたのが印象的です。

超能力化できる学校

ある日、3年生のK・Kさんが校長室を訪ね、自宅で描いた油絵4点をもってきて見せてくれました。「道具を買ってもらって、独学で描いているんです。」と教えてくれます。美術の栗田先生も校長室に飾った油絵を観て、それを独学で描いていることに驚いています。最近、友人のS・Kさんも一緒に、水彩画のイラストを描いては、作品の感想を尋ねにきてくれます。

日曜日の体育祭に向けて、全体練習や組練習で、今、学校は活気に満ちあふれています。各組を担当する先生方も、幹部の3年生に、活動を任せて遠くから見守る姿が数多く見られます。ひとつひとつ教師が指導し、それに従う中学生の姿とは違います。こんなところから、生徒自身が、自らの持つ力を精一杯発揮しようとする環境になるのだなあと感じます。

今年の体育祭の実行委員長は、K・Aさんです。先々週の放課後に、「体育祭のプログラムに載せる文章をお願いします。」と校長室を訪ねてくれました。そして今週になり原稿を取りにきた時、体育祭テーマが『煌星（きらぼし）』の二文字に決めたことを伝えてくれます。

校舎を歩くと、応援合戦のダンスを3年生が1、2年生達に教えている場面に遭遇します。きっと学級内で綿密に打合せをしてきたのでしょう、後輩へのダンスの伝達はとても丁寧でわかりやすく行っていました。リーダーがちゃんとリーダーらしく振る舞っている姿がそこにはあります。あまり威張り過ぎないように、けれどちゃんと意図が伝わるように、言葉を選びながら指示をだしている姿は、リーダーとしての力が備わっていることを裏付けます。



中学生が持つ力には本当に感心します。

美術室前のミーティングルームではブルーシートが敷かれ、看板係の生徒たちが、自分の組のイメージを題材にした図柄を描いています。



人にはきっと誰にでも想像を超えた力が与えられていると思います。それは火を起こしたり、スプーンを曲げたりする力ではなく“挑戦する自由”という力が原動力です。

校舎を歩いていると、教室ではプロのダンサーの動画を見ながら思案している生徒に出くわします。その足でコンピュータ室にいくと、新聞をパソコンで作っている生徒2名に出会いました。挑戦の自由があっちこちに散らばって、生徒達は自分の力を超能力として発揮しようとしているように思えて仕方ないのです。

体育祭などの学校行事には、普段は出せない自分の持っている力を、ひょいと発動させやすい作用があります。でも、一番大切なのは、体育祭で力を発揮している生徒達が、体育祭後の日常生活の中でも、今見せている挑戦の自由をひょいと発揮できる環境です。

足の速い者は、遠慮せずに選手となって力を発揮できる学校、リーダー力のある生徒が遠慮せずに集団を引っ張る立場に立てる学校、自分の興味あることを遠慮せずとことん探究する生徒がいる学校。そんな環境を提供する学校があって、中学生が持つ力を、超能力と化するのでしょう。

「校長先生！組看板観てってください！」最後に通ったミーティングルームの前でK・Kさんと目が合いました。

やっぱり、組の看板描きの役職に、K・Kさんはいました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。